



越谷レイクタウン大相模調節池修景設計

株式会社総合設計研究所

木村 弘・石井ちはる・富樫 衛・内田 剛・志村 勝・勝村 実・武田栄文・木村泰士

□ 作品の概要

対象地がある越谷レイクタウン地区は、都市機構が基盤整備し、民間開発で住宅・商業地等が整備され、平成20年にまちびらきが行われた。大相模調節池は、越谷レイクタウン地区のほぼ中央に位置し、元荒川から流入し中川へ流下する大規模な調節池である。

本業務は、環境共生の先進地区としての環境整備とさまざまな地元要望に応えるために、擁壁護岸などが先行整備された調節池に自然環境を創出して保全することと併せて、エコ施設の整備と積極的に市民の利用を図ったこと、市民による植生管理や水上スポーツなどの利用管理を実現したことが特色である。

□ 作品のテーマと空間構成

「“水郷こしがや”の水の記憶を継承する街」をテーマとし、①広域的郷土資源のネットワークを活かした

ランドスケープ、②景観軸の形成や水郷らしい水辺景観の創出、③調節池からまちへ波及する環境エコの取り組み、④ワンド・浮島・畦草地などのサンクチュアリーエリアの整備、⑤水上イベント・スポーツの場となるよう、空間構成や施設整備を行っている。

対象となる調節池北池には主に3つのゾーンがあり、北西部水辺ゾーンは、水郷越谷の風景をつくるビオトープ空間であり、サンクチュアリーエリア（自然遷移エリアと遷移エリアのエコトーン）、公園的活用エリアで構成している。サンクチュアリーエリアについては地区と周辺の自然環境調査から、大相模調節池における市民組織の「水と緑の懇談会」や管理者とともに、目指す環境の設定と植生管理方法を共有化することで市民活動の一助となったであろう。センター側水辺ゾーンは、緩やかな斜面の芝生と水辺に親しむ賑わ



作品概要

作品名：越谷レイクタウン大相模調節池修景設計
 所在地：埼玉県越谷市大成町
 発注：独立行政法人都市再生機構 埼玉地域支社
 設計：株式会社総合設計研究所
 設計協力：有限会社穂高建築設備事務所（電気・給水設備）、有限会社和田アトリエ（建築構造）
 監理：
 施工：西武造園株式会社、戸田建設株式会社
 設計期間：平成18年10月～平成19年9月
 施工期間：平成19年～平成20年度
 規模：26 ha
 主要施設：レイクサイドウォーク、畦草地、浮島、ワンド、井戸とせせらぎ、水上ステージ、栈橋、バーゴラ、トイレ（管理スペース・電気室）、水位標、噴水、照明、転落防止柵、水位警報施設 等

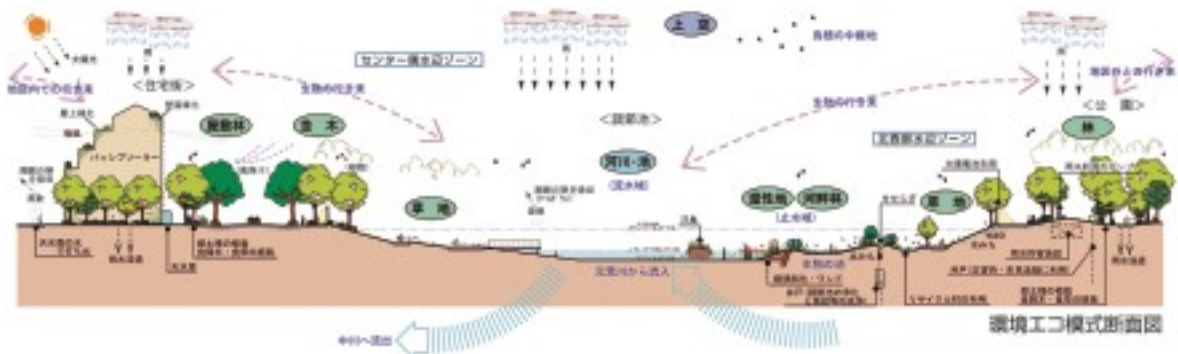
いの広場型空間でレクリエーション的利用、イベントの利用に対応する構成となっている。キャンダルゾーンは、住宅地と一体的な親水空間と階段型の護岸で構成された空間である。

作品評

本作品は、テーマに即し地域資源の活用、環境エコの取組み、自然環境の保全・創出、レクリエーションの場の提供などの要求に対し、高い技術をもって取り組んだ作品であり、広大な対象地においてランドスケープが受け持つ基本的な機能が多く実施されているため、一見、あたりまえのように見えるものとなっているが、そのひとつひとつが真剣に、かつていねいに取り組んだ結果であり、それぞれの要素が関連性を持ちつつ、シンプルにバランス良く計画・設計されているところが高い評価につながった。

とくに、広域的郷土のネットワークを活かしたランドスケープの検討からコンセプトを導き、景観形成や循環型社会への寄与などのランドスケープデザインにつなげていく点は高く評価された。

各ゾーンは調節池を一周する全長5.7 km のレイクサイドウォークが連絡しており、新しいまちで展開する人々の日常やアクティビティ、生物の営みなど、さまざまなシーンをネットワークしていくことであろう。



北西部水辺ゾーンのビオトープ
（ワンド・浮島など）



自然石護岸の汀



カヌー・ディンギー体験会の様子
（浮き栈橋）



多目的広場
（北西部水辺ゾーン）



エントランスパーゴラ／稲干しのパーゴラ

屋根部にソーラーパネルを設置し、井戸や噴水によるばっ気に利用している。



北西部水辺ゾーンに生息する生物

